

## 平和博物館国際交流ニュース

平和資料館「草の家」国際交流部 山根和代

1999.4.

海外から様々なお便りが来ていますので、お知らせします。国際会議で平和博物館の定義について論議されましたが、ドイツの反戦博物館館長のトム・スプリー氏からお便りが来ています。「反戦博物館は、平和博物館ではないのか？」という問いかけですが、「世界の平和博物館」(国連出版)の序文の内容と対照的ですので、先ず序文の要約を御覧ください。

### 国連出版の「世界の平和博物館」について

1998年に「世界の平和博物館」というガイドブックが国連から出版されました。下記は序文の要約です。入手されたい方は国連に連絡を取ると送ってくれます。

連絡先: United Nations Publications, Office C 115, CH1211 Geneva 10, Switzerland

### 平和博物館の概念と関連した施設

国連 Ursula-Maria Ruser

#### 今日の平和博物館

平和博物館の概念は、比較的新しく、様々なものがあります。このガイドブックに載せている多くの平和博物館は、1920年代にエルンスト・フリードリッヒに創設された反戦博物館の「伝統」にそって、つまり戦争を再現するようなやり方で、創られました。しかし残酷な場面を期待してやってこない訪問者に対して、このような展示は精神的暴力と考えることがありうるという問題があります。

平和教育では、同様に過去の事柄を教えますが、環境問題や若者、そして子どもの活動など現代の問題解決方法も含めます。

一般的に平和博物館の概念は、まだ定義されていないことができます。

#### 平和は家庭から

平和は目的ではなく、過程であり、個人がそれぞれその過程に関わっていくことに合意するのであれば、平和博物館の仕事は、次のようになります。このようなことを理解しなかったために、過去において戦争を支持することにつながったということを、歴史的事実を用いて人々にわからせるようなセンターになることでしよう。

さらに平和博物館の仕事は、平和は家庭で始まることを指摘することでしょう。昔から平和は、人々が共に仲良く食べたり、話したり、理解し合ったり、遊んだり、ダンスをしたり、働くようなことと理解されています。このような状態が妨害されると、暴力や戦争という結果が生じることがあります。

#### 調停の役割と国連

何世紀にもわたり紛争が生じると、その解決策として調停がなされました。家族、隣人、近隣諸国が調停し、最後の手段として弁護士や法律に頼りました。

第1回国際平和会議の結果(1899)、ハーグ仲裁裁判所、常設国際司法裁判所(1922)、国連の国際司法裁判所(1945)が創設されました。最近国連では、コフィ・アナン事務総長などが個人的に紛争解決のために調停の役割を果たしています。

今日近隣諸国の援助では解決できない紛争がありますが、このような場合国連が調停者として活動することがあります。もっとも対立した両者とその国の国民によってそれが受け入れられ場合ですが。

コフィ・アナン氏はバグダッド訪問後の記者会見(1998年2月24日)で、調停する際圧力をかけて戦争勃発寸前の状態にするのではなく、イラクを尊重して紛争解決の方法を見出す必要性を表明しました。このような過程では、「勇気と知恵と柔軟性」が必要ですが、平和博物館は人々がこのような紛争解決能力を身につける場所になることができるでしょう。

#### 平和博物館と関連施設：新しいやり方

平和博物館では、過去の出来事に焦点を当てるのではなく、その目的の一つとして国連の活動を積極的に支持することができるでしょう。次のようなやり方を考えることができます。

- \* 現在の紛争の状況を、過去の歴史を示して説明し、その解決方法、政治的社会的状況、個人的責任について考えられるようにする。
- \* 過去においてどのようにすれば調停がうまくいったのか、また失敗したのか、その原因は何かを研究できるようにする。またよりよく調停できるような方法を見出すために、調停の過程における個人と組織の役割を調査する。
- \* 国家の命令の哲学的心理的背景、文化的宗教的概念、法律の研究をし、軍事的紛争開始の背後で人々を巧みに操作する権力の分析をする。
- \* 権力と虚飾の象徴としての軍事力の誇示、軍服、英雄の神話の背後にある概念を明らかにする。
- \* 公開討論会を開き、人々が古い考え方を受け入れないようにし、教育及び自己教育を促進する。

#### 平和博物館と関連施設の究極の目的

平和博物館及び関連施設は、単なる「博物館」ではなく、ミュージアの神々のように芸術・学問ができる所でなければなりません。また歴史的事実を学んで、平和は法律、秩序、組織、政府によって押し付けられるものではなく、皆が同じように関わり責任を持っていく過程であること、また平和はすぐに「取り付け」ことができ永久に続くものではないこと、必要であれば国連のような組織の援助で、平和は守っていかなければならないことを人々に理解させる場所であるべきです。基本的に平和は私達の外にあるものではなく、それぞれの人の内部から始まるものであり、いかに自分の人生を築いていくのかを反映するものなのです。

平和博物館の訪問者は、自分の平和への協力と貢献が非常に重要であること、また国連のコフィ・アナン氏の調停やその他の調停の過程を、家庭で取り組み始めることによって自分も支持することができるのだという確信を持って、微笑みながら平和博物館を出るようであればなりません。

もし心に正義があるば、その人の性格は美しいでしょう。  
もし性格が美しければ、家庭に調和があるでしょう。  
もし家庭に調和があれば、国に秩序が存在するでしょう。  
もしそれぞれの国に秩序があれば、世界が平和であるでしょう。  
(中国の古い諺)

### \* 反戦博物館も平和博物館では？ \*

ベルリンの反戦博物館館長のトミー・スプリー氏から、次のような手紙が「草の家」にきました。なお連絡先が変更になりましたので、お知らせします。

Mr. Tommy Spree: Anti-Kriegs-Museum: U-BHf. Amrumer Str. Brusseler Str. 21 13353 Berlin, Germany

昨年 11 月の平和博物館国際会議で「宿題」としてお願いしていました、朝日新聞の記事

(11月10日)の英訳を、「草の家」英文ニュースレター13号に載せてくださりまして有難うございました。定期的に興味深いニュースレターを送って下さって、とても感謝しています。

反戦博物館は平和博物館になりうるのかという議論は、国際会議ですっと行われ、また日本の新聞で報道されましたが、私もその議論に参加したいと思います。

私たちの反戦博物館はドイツの平和運動に所属しています。私たちもまた世界の平和を望んでいるのです。展示を通して訪問者が未来の平和の展望を持つように努力しています。また私たち教師は、平和教育をしています。そうでなければ日本で開かれた平和博物館国際会議に参加しなかったでしょう。

私の祖父のエルンスト・フリードリヒが1925年に名付けた反戦博物館という名前は、勿論戦争や暴力への反対を示しています。戦争の悲惨さも展示されていますが、平和へのメッセージを伝えようとしています。

祖父はある時次のように私に語ってくれました。「おまえは戦争に反対し、平和のために闘わなくてはいけないだよ。というのは、相手はとても強いからね。その名前は、軍国主義というのだがね。お茶を飲んだり、美しい絵を描くのは、内面の平和にはいいかもしれないが、それだけでは抑圧体制や独裁制を変えることはできないんだよ。二つの世界大戦は、これまでの歴史の中で、かつてないほど過去と現在と未来に大きな影響を与えてきたんだ。だから現代の戦争でみられた暴力や狂気を考えると、それに反対して何かをしなければいけないね。反戦の立場でなければね。」

賛成できないものに反対することは、人生においてきわめて重大なことです。不正に反対しなかったら、また労働運動や女性の権利擁護の運動がなかったら、ヨーロッパでは正義と民主主義は発展しなかったでしょう。

ところで反戦博物館という名前に、若者が関心を持っているようです。しかし祖父はまた著書の中で、彼の反戦博物館を「平和博物館」とも呼んでいることを思い出します。彼の平和のための活動と平和教育が、彼のそのような確信をよく表しています。

日本で素晴らしい国際会議を開いて下さりまして、心から感謝しています。日本の友人の皆様によろしくお伝え下さい。

敬具

2月7日

ベルリンにて

トム・スプリー

## \* イランにおける対話の博物館 \*

テヘランにある国際政治研究所を訪問された北アイルランドのアルスター大学のテリー・ダフィ博士からお便りがありましたので、要約します。

現在イランの多くの博物館では、イスラム革命で想像するような硬いイメージとは異なった展示をしています。西洋との対話を促進しようとするハタミ大統領は、2月26日の地方選挙で勝利しました。このことで宗教と政治の分離が進むと考えられます。テヘランにある Glass and Ceramics Museum では、5000年前のガラス製品や1万年前の陶磁器類が展示されています。また the Archaeological Museum of Iran にも紀元前4世紀の陶磁器など古いものが展示されています。現代的な Tehran Museum of Contemporary Art には、イランや外国の芸術家の作品が展示され、イランの若者や知識人の交流の場になっています。しかしまだ芸術家のたまり場にはなっていない状況です。その他、the National Palace Museum, Fine Arts Museum, Carpet Museum などがあります。これらの博物館は以前のような扇動的な要素が薄くなっているようです。人々の生活は西洋化され、外国人を歓迎する雰囲気があります。イランの博物館は、文化的豊かさを感じさせ、ハタミ大統領が提唱している文化的対話の過程で大きな役割を果たすことが期待されます。

## \* ハーグの国際平和会議に参加しませんか? \*

5月にオランダのハーグで開かれる国際平和会議に、平和博物館国際ネットワークとしても参加します。会議に関する日本語の資料を入手したい方は、日本反核法律家協会に連絡を取ってください。(〒160-0004 東京都新宿区四谷1-2 伊藤ビル2階 電話:03-3341-1417 Fax: 03-3341-1439 資料代: ¥1000)

会議に参加される方は、「草の家」に 月 日までに御連絡下さい。4月末に発行される平和博物館国際ネットワークのニュースレターで詳細が分かると思います。なお下記の反戦博物館や平和博物館の訪問をお勧めします。

\*Dutch Anti-War-Museum: Minahassastraat 1, 1094 RS Amsterdam  
Phone: +31 20 668 1868

\*Yi Jun Peace Museum: Wagenstraat 124/124A, 2512 BA The Hague  
Phone: +31- (0)70-3562510 Fax: +31-(0)70-3615227

またヨーロッパ各地の平和博物館を訪問したい方は、国連出版の「世界の平和博物館」や、「世界の平和博物館」(西田勝・平和研究室編、日本図書センター出版)における「ヨーロッパの平和博物館」(山根久之助・和代執筆)を御覧下さい。

## \* 文学と文化を通して紛争解決を: 国際会議のお知らせ \*

### International Congress on Conflict Resolution Through Culture and Literature

イスラエルのハイファで6月28日から30日まで文学と文化を通して紛争解決を目指す国際会議が開かれます。1996年オーストラリアで開かれた国際平和研究学会で「文学と文化を通して平和を」(Pave Peace Through Literature and Culture)という分科会が創られました。詳細は次の英文ホームページで入手可能です。

Dr. Ada Aharoni: <http://tx.technion.ac.il/~ada/home.html>

なお日本の窓口は山根が担当していますので、興味のある方は御連絡下さい。

## 岡まさはる記念

# 長崎平和資料館

〒850 長崎市西坂町9-4

TEL&FAX 0958-20-5600

被爆地長崎にある「岡まさはる記念長崎平和資料館」は、早くから日本の加害責任を追及してきた岡正治牧師の遺志を受け継いだ長崎市民によって95年に設立され、その後も市民の力だけで運営されているものです。

展示の概要は、おおきくは、朝鮮・中国をはじめとしたアジアへの侵略の歴史と加害の事実、また長崎での強制連行・労働そして韓国・朝鮮人被爆者の実態です。飯場や食事の復元や、独自の研究・聞き取り調査などの資料展示により、ナガサキのもうひとつの歴史の真実を紹介しています。

年間をどうしての活動は、ビデオ上映会(隔月)と、講演や集会などの開催、ハングル講座も開設しており、また、会報として「西坂だより」を発行しています。去年から、修学旅行の平和学習として来館する中・高校が一段と増え、インターネットによる他団体や個人との交流も深まってきました。これからも更に幅広い活動をしていきたいと思っています。(長崎平和資料館 松崎涼子)

# 平和友の会

## 平和友の会 について

### 沿革

1981年以来、毎年夏、「平和のための京都の戦争展」が開かれてきました。運動の中で、夏の期間中だけでなく、いつでも参観できる常設展の設立を求める要望が高まり、それに応える形で1992年5月、立命館大学国際平和ミュージアムがつけられました。

翌93年、常設展のボランティアガイドが呼びかけられ、ガイド養成講座がもたれました。その受講生が中心になって、その年11月、「平和友の会」をつくりました。会員は今、発足当時（63人）の二倍半位になっていますが、7つの部会を軸に自分流のやりかたで「平和に貢献する」活動をしています。

### 活動の内容

発足して5年、この間、ガイドをした参観者は5万人をこえました。月一回行っている学習会は、63回を迎え、その内容を伝えることを目的のひとつとしているニュースも、この4月、63号を数えます。顧問の「安斉育郎先生と行く平和ツアー」も松代、舞鶴、東富士、沖縄、広島を訪れました。2000年には初の海外ツアーも視野にいれています。(昨年秋の第3回世界平和博物館会議で私たちの作品が目にとまり、オーストリアのStadtschlainingの古城が転化するヨーロッパ平和博物館に展示されることになったからです。)

会員の体験や自主的な研究のまとめなどの刊行物も陽の目をみえています。こうした活動は、大学関係者のご厚意や自発的自主的な会員のエネルギーによって支えられ、その実績が、大学との関係にとどまらず、京都の平和運動の中での一定の地歩と信頼をつくりあげつつあります。

なお、会の英語表記については、目下検討中です。

### 連絡先

Ⓓ603-8577 京都市北区等持院北町56 立命館大学教職員会館気付  
平和友の会 川畑康郎 TEL・FAX 075-465-8353

## 編集後記 ★★★

\*昨年11月、第三回世界平和博物館会議が開かれた際、日本国内のネットワークを作ろうということになり、事務局を「草の家」が引き受けるはめになりました。創刊準備号は立命館大学国際平和ミュージアムが出してくれ、創刊号の原稿の締め切りを3月20日にしてあったのですが、原稿は2つしか届きませんでした。多彩な各地の取り組みの状況や問題提起を期待していたのですが、とりあえずこんな形で創刊号を発行します。

\*ニューズレターの名称は、「平和のための博物館・市民ネットワーク」 年二回発行（次号は10月1日発行、原稿締切9月20日、400字程度）です。

\*個人参加のゆるやかな組織ですが、今後送付を希望される方は、同封の振替用紙で2000円を送って下さい。少し高いと思われるかもしれませんが、このニューズレターを元に英文のものを6月と12月に世界平和博物館ネットワークに送ります。その費用も含まれていますのでご了承下さい。

\*「草の家」は3名の代表をハグ平和会議に送る準備をしています。その中で目にとまった論文を紹介しておきます。

「法律時報」1月号 「平和と人権」考 水島 朝穂

「軍縮」3月号「成果をあげた第三回世界平和博物館会議」 藤岡惇

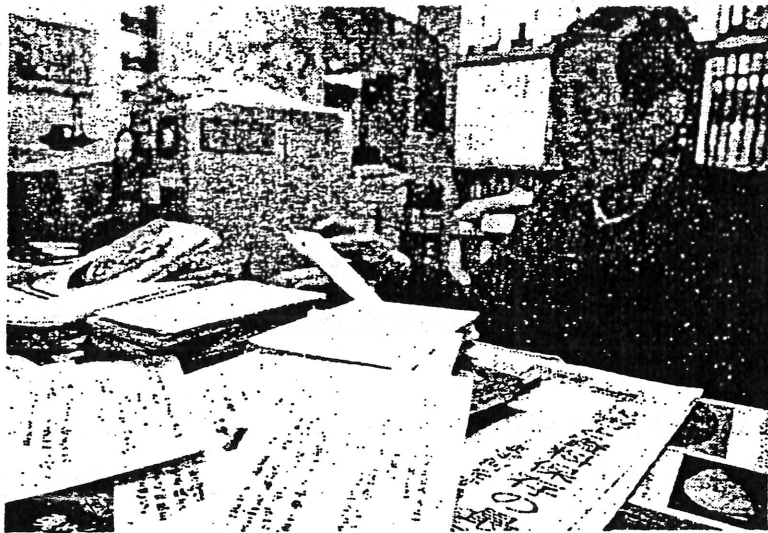
「オルタ」4月号 いま戦後補償を考える 今村嗣夫、高木喜孝

\*高知は非核港湾条例制定の大運動がおきています。3月県議会で自民党議員によって廃案にされましたが、選挙後の6月議会に橋本知事は再提案

すると言明しています。全国の著名人570名より賛同・支持の聲がよせられ、その一言ひとことに大きな励ましを受けました。

\*これら平和運動の土台となる平和資料館・平和博物館はますます重要になっています。皆さまのご健闘を祈ります。(西森茂夫)

「非核港湾」に賛同する全国からのしがきを整理する西森さん(高知市の「草の家」)



## 平和資料館「草の家」

平和資料館「草の家」(西森茂夫館長、高知市升形)が設立されたのは、平成元年十一月十一日。こととして十周年を迎える。「中国平和の旅」など、戦争の被害と加害の両面を見つめようとする平和活動や世界の平和博物館との交流、憲法の森の育林…。活動は共感を呼び、輪を広げる。草の家は西森さんが教職を退いた後、私財をもとに民立民営で始めた。四階建ての一階がホール、二階に資料室。三、四階はワンルームマンションで、その賃貸収入を建設時の借金返済にあてている。

七百五十人の会員たちが自主的に参加する事業は多

## 共感呼ぶ活動10年

岐にわたる。戦争史料の展示や「戦争語り部」との交流会、翻訳した憲法九条のカードを世界各地に送ったり、紛争地で平和活動に取り組む人を招く。また戦争遺跡の保存や子どもたちの美術教育のほか、長岡郡大豊町の「憲法の森」にはこの三年で約五十種、四千五百本の広葉樹も植えた。本県の非核港湾問題では全国の著名人に条例化への賛同を呼び掛けた。日々の社会問題への発言、行動も早い。十周年記念事業では五月にオランダで開かれる国際市民平和会議に代表を派遣する予定。今回の助成も派遣費用の一部に役立てる。

## お知らせ

\*長崎原爆資料館の監修を巡って右翼が提訴していた裁判は、お陰で勝訴しました。(安斉育郎)

\*太平洋戦史館の「イリアンだより」によると、編集者の花岡さんは、1月末に横浜を引き払い、岩手県衣川村に移り住みました。

連絡先: 0197. 52. 3000

\*憲法の森が高知県大豊町(95.5)、長野県松代(97.5)に続いて四万十川の源流、黒尊に誕生します。(99.4.29)全国各地に憲法の森が誕生することを夢んでいます。

\*東京九段に戦没者遺族の資料館「昭和館」が3月27日オープンしました。「戦中、戦後の国民生活上の労苦を伝える施設」(厚生省)だそうですが、アジアの視点を欠き、歴史の事実と向き合うことのない施設は論議の対象になるでしょう。

\*草の家では、「子どものためにーベインブリッジ島 日系アメリカ人の歴史」のパネルを貸し出しています。詳細は草の家まで。

平和のための博物館・市民ネットワーク (事務局: 平和資料館・草の家)

780.0861 高知市升形9-11 TEL0888.75.1275 FAX21.0586)